

ぜんこうもくひょう  
**全校目標**

# GROW UP!

～みんなとそだてるココカラの木

## ココカラアンケート(報告)

アンケートのご回答ありがとうございました。結果の報告と合わせて皆様から頂いた多くのご意見やお悩み等について共有させていただきたいと思っております。本当に多くの貴重なご意見をいただきましたので、十分ではありませんが「ココカラについて語らう場の代わりとなれば」という思いも込めて、この号から複数号に渡りアンケートの内容をお伝えしていきたいと思っております。また、保護者の皆様からは、先輩保護者のアドバイスや経験談を具体的に聞いてみたいという要望もありましたので、今後も引き続き、情報共有できる機会を検討していきたいと思っております。



Q1.ココカラ便りでお伝えしている通り「ココカラ学習」を全校で実施しておりますが、保護者様はどのように感じておられますか？

小学部		主だった理由
全く関心がない	1	何をやるのかわからない
あまり関心がない	6	いまいちよくわからない・もう少し大きくなってからと思っている・まだ子どもだと思って考えていなかった事を知ることが多くあった
やや関心がある	27	高学年になってきたため・どんな授業をしているか気になる・各学年で具体的に何を学んだかわかったので参考になった 色々悩んでいるから(複数)・どのように年齢と発達とのバランスをとっていくか学習が必要だと思うから 女の子なので性に関する不安がある・これから様々に質問が出てくると思うが、それについての的確に説明されていて参考になる 他者とのかわり方など、家庭では指導が難しい部分について学校で取り組んでもらえるのはありがたい 身体が大きくなってきて、今後生理の対応など必要だから
とても関心がある	11	どんな悩みや不安を感じているか等、中々聞けない内容を発信してくれる 知的障がい理解できるのかわからないので、どのように伝えればよいか難しい(複数)・家で話をやる良い機会になっている 本人にも周りにも大事な事だから・どこまで教えてよいかかわからないので学校で実施してもらえてありがたい(複数) 学校で扱う性教育には限界があると聞くので、親から伝えるべきであると思っている

中学部		主だった理由
全く関心がない	0	
あまり関心がない	4	
やや関心がある	28	家でどのように教えてよいか迷っていたので参考になっている・家庭では教えきれないことだと思うので 成長するにつれて心身のバランスをとるのが難しくなっていくので、子どもに向き合えば色々考えていければと思う 自分も教えてもらっていない事をどうやって伝えればよいかかわからない・日常では中々できない経験ができると感じた 関心はあるが、まだ理解できないようなのでしていない・家庭で性の話をしたことがないので助かる どのように学習しているのか、子どもから聞くのは難しいのでお便りで知ることができた 関心があるが参考にならないことが多いため、個別で考えていただいているのか不安に思う 学校で学習したことをどの程度理解しているのか・ 子どもの成長に合わせてどのように話して行ったらよいか、どこまで理解できるのかと思う
とても関心がある	5	中学生になり急に体が変化したり、ホルモンバランスの関係がイライラしたり反抗したりすることがある。また周りの子を気にするなど 世界が広がっていると感じる反面、バタバタ甘えたり今までと同じところもあるので、年齢や身体に合わせてふまを変えなければならない 感じていてとても関心がある 一人の人として向き合うときに大切だと思っていた部分なので、学校での取り組みや意識や方針に関心がある 家庭では上手に伝えられているかわからないので、学校で取り組んでいただけて良かった

高等部		おも りゆう 主だった理由
まったく かんしん 関心がない	3	こ おぼ か きょういく わる 子どもが覚えることを書いていて教育に悪い
あまり かんしん 関心がない	14	よゆう ほんにん 余裕がない・本人が「ココカラ」の意味を理解していない為
やや かんしん 関心がある	41	いえ おし むすか ひと せいちょう まな よ おも つた ほう よ 家で教えるのが難しいので・人とのつながりや成長について学ぶのは良いことだと思ふ・きちんと伝えた方が良くいことだから ほんにん まか おや おんどさ なつ せい かん こうえんがい どうが を じっくり 見せて いただき 学ぶ ことが できた 本人に任せているが、親との温度差があるので・夏の性に関する講演会の動画をじっくり見せていただき学ぶことができた ほか がっこう おし よ おも よ おも やく た よ おも 他の学校では教えてくれないことを教えてもらえるので良いと思う・良いことだと思ふから・役に立つことがあるので良いと思う こ じしん りかい ねんれい からだ おとな がっこう まな ほう 子ども自身があまり理解できないが年齢とともに身体も大人になっていくから・学校で学んだ方がちゃんと聞いてくれるから かてい せい はな よ かてい かいわ つな おも 家庭ではどう性について話せば良いのかわからないので、ココカラ便りを読んで家庭での会話に繋がりたいと思ったから ないよう こ こ ちが おも きょうつう ぶん おや べんきょう こ 内容は個々に違うと思うが、共通する部分は親として勉強になるから・子どもたちがどれくらい理解しているか関心がある
とても かんしん 関心がある	9	あんちく りょうかい さつ むすか がくしゅう ひつよう おも よ がくしゅう おも 暗黙の了解とか察することが難しいのでこういう学習は必要だと思ふ・とても良い学習だと思ふ かてい はなし むすか ともだち いっしょ まな りかい おも 家庭で話をするとどうしても難しくなるので、友達と一緒に学べるのは理解しやすいと思ふから きょうか そく ないよう おし しゃかい て こ ひつよう ちしき おも どの教科にも属さない内容だが、これから社会へ出ていく子どもたちにとって必要な知識だと思ふから こ はなし かいわ つた よ かんしん また子どもとしっかり話をしたことがないので、どのように伝えたら良いか関心がある かてい おや おし 家庭で親が教えることができないことを教えてくれるので

多くの保護者は、本校の教員と同様に「ココカラ学習」について、子どもの成長にとって大切な学習だと捉えていることがわかります。どの学部にも共通しているのは、こうした学びは、家庭だけでなく学校など様々な場面で学んでいく事がより効果的であると考えているということです。一方で、「どこまで理解できているのか?」「本当にわかっているのか?」という不安を感じていることも伺えます。この点について、学校では「ココカラ学習」について「できた・できない」という評価はしないとしていますが、学習の結果「どのような力が付いたか」については確認する必要がありますので、今後、日常生活の様子と合わせて、どの程度定着しているのか確認できる取り組みも検討していきたいと思ひます。



学校教育では性に関する指導を「狭義の性に関する指導」と「広義の性に関する指導」に分けて考えています。狭義というのは、二次性徴の発現や生殖機能の成熟、授精、妊娠、月経、射精、性行動、性感染症など、直接「性」に関連する事柄をさしています。広義というのは、狭義の性に関する指導に加え、生命尊重や、性行動に関するリスクを認識し、回避する態度や望ましい人間関係を築く能力の育成など、それらの基礎となる教育を含めたものをさします。(日本学校保健会「学校保健の動向」より抜粋)

一般的には狭義の性に関する教育は年齢が上がるにつれてその割合が増えて行き、広義の性に関する教育はその逆となります。本校でも、科学的知識を踏まえた正確な情報である事は絶対ですが、科学的知識を理解させるだけでなく、望ましい人間関係や他者への思いやり、自己及び他者の個性の尊重等も大切できるように取り組んでいます。



上記でもあるように、低年齢の内から「狭義の性に関する指導」をするのは難しいですが、まずはそのベースとなる力の育成については家庭でも取り組む事ができるのではないのでしょうか?

例えば、学習自体に向かう姿勢の育成として、大人との信頼関係を育てておくことは大切です。具体的には、些細な事でも本人にどうするか「自分で考え(自己選択)」「自分で決める(自己決定)」の習慣を身に付けさせたり、合わせて危険な事以外はできるだけその意見を尊重して聞き入れるなど「受け入れられた」等です。また、全部大人が決めてしまう、折角本人が意見を述べても聞き入れない等の体験が多くあると、自分で何かをするという意欲が低下したり、大きくなって来ると「大人はわかってくれない」「どうせ〇〇だ」という気持ちになってしまい、他責にしたり大人の助言など大切なメッセージが届かない事になってしまいます。(勿論何でもかんでも本人の決定を尊重するばかりでは、頑張る事やある程度辛抱する事など社会生活で必要な事を経験できませんので、バランスが大切です)



他にも普段から挨拶をする習慣は良好な人間関係の基本です。高等部を卒業して働き始めると、挨拶力は必須となり一度身に付けると一生使える力です。また、障がいの程度に関係なく、「おはよう!」「(挨拶の)おーい!」「さよなら!」など挨拶ができる児童生徒は顔も名前も多くの先生やお友達が覚えていて、これは社会生活でも同じで、挨拶することで地域の人とも顔見知りになることで、トラブルにも巻き込まれにくくなります。



他にも、規則正しい生活習慣は始めるのに早すぎることはありません。その習慣が無いと、それ以上の健康管理はできませんし、卒業後、働く時に重要であるというだけでなく、生活の質自体も落ちてしまいます。また、健康管理という点では、何かを受け入れる力や医療を受ける力もまた重要です。特に、感覚過敏や見通しの無い事への不安などで、病氣予防の取り組みや医療にかかることに制限があるように思えても、小さな内からごっこ遊びで疑似体験を繰り返したり、見通しが持ちやすいように手順書を用意して繰り返しお話をしておく等、本人の過度な負担にならない程度に少しずつ練習していく事で、完全でなくてもいざと言う時に適切な処置が受けられるようになります。



他にも、自分を大切にしてもらった経験や「ごめんね」と言えた時に許してもらった経験、また嫌なことを嫌と伝えて受け入れてもらった経験など、性に関する学習のベースとなる力を育てるチャンスは色々な場面にあります。

豊かな土壌なくしては実は実のならないように、年齢が上がり、いよいよ性について深く学ぶ必要が出てきた時に、こうした基盤となる力がなくては何かをするのか、どうしてダメなのか等が概念だけにとどまってしまう、自分と違う他者の価値観を受け入れることはできません。ですので、ご家庭ではあまり難しく考えすぎず、この土壌となる基本的なことから丁寧に取り組んでいただければ良いのではないのでしょうか?

